

サ一尺二寸、深一尺五寸、右十本枝ヲ穴周圍ニ並樹テ、中ニ牛馬ノ枯骨ニ小石ヲ混タルヲ入ルコト一二寸、其上ニ肥土ヲ入ルコト一二寸、又其上ニ骨ト小石一二寸、肥土一二寸、漸々右ノ如ク衝固入レテ、平地ト同坦ニシ、石榴枝抄ノ僅ニ出ルコト一寸餘、頻ニ水ヲ灌テ常ニ潤シ置トキハ、皆活著テ枝抄成長ス、其ノ長ズルニ從ヒ、根ノ圍ニ骨ト石ヲ取掛テ、其ノ能ク繁榮シタル後ニ分テ移栽ベシ、又其儘ニ成長セシメタルモ、莠蔚テ美ナル者ナリト云フ、

〔地錦抄附録三〕享保年中來品

南京柘榴ナシキシザク享保九年に來る

大和本草に朝鮮ざくろとあり、夏より冬まで月を追て花さくといへり、西國方には前々より有し由也、武江へは享保九年の比初て來る、小木にて花多く咲實のるながめよし、

〔本草和名十二〕五茄或陶景注云、一名豺漆、一名豺節、本條一名五葭、藥性釋一名杜節、一名節花、已上出、一名金鹽母、一名鼓母、一名牙古、一名金玉之香草、五車星之精、已上出、一名五行之精、一名五葉、一名戴瓜、一名五家、家五葉同本而外五分、故名五家、如五茄者草精也、出范和名牟古岐。

〔倭名類聚抄二十〕五茄 神仙服餌方云、五茄和名無或茄作家、言同本而五家、如五家爲相鄰也、

〔箋注倭名類聚抄本〕本草和名五茄條引云、一名五家、五葉同本而外五分、故名五家、如五家爲隣比也、則知此同本上脫五葉二字、而下脫外五分、故名五字、蓋傳寫誤脫、非源君之舊也、按五茄本作五

家、通借五加、後从艸、與蓮莖之茄混、

〔書言字考節用集生六〕五加ウコギ

〔本草綱目譯義三十六〕五加ウコギ

冬葉ナシ、古クナレバ木大クナル、市中ニアルハ葉小シ、春新葉ヲ采リテ食ス、苦ミナク甘ミアリ、

コレハ姫ウコギト云、五葉ツキ黒ミアリ、四五枝一處ニ叢生ス、其間ニ花ツク、人參ノ如ク一處ニ